

男女共同参画社会を考える情報誌 ききょうフォーラム通信



いせはら男女共同参画フォーラムを開催しました。

「私たちにできること、考えたいこと

～誰もが輝く社会のヒントを障害女性の視点から～」

講演の内容をご紹介します

講師は、東京新聞「障害者は四つ葉のクローバー」をはじめ、いろいろなコラムを担当し、「障害女性」として活動している伊是名 夏子(いぜな なつこ)さん。

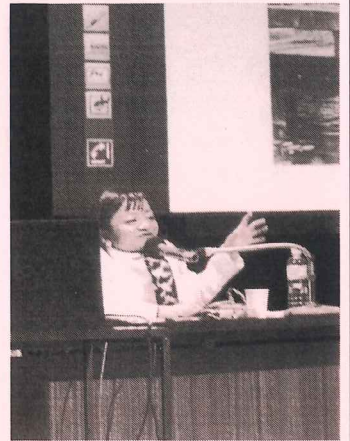
講演では、女性・障がい・自立・結婚・子育てなどのライフステージにおいて、「困難な道のりだから」と諦めずに生きてきた、半生を語っていただきました。

伊是名さんは川崎市在住、パートナーと子ども2人の4人家族です。43年前に沖縄県で生まれ、生後に「骨形成不全症」であることが判明。小～中学校は養護学校で、クラスは先生と自分一人のみ。「たくさんの友人たちと勉強がしたい」と、高校は一般の高校に進学しました。

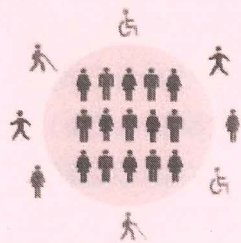
伊是名さんは、5kg以上のものを持つと骨が変形してしまうため、抱っこができません。そのため、子どもたちとふれあい一緒に乗れるように車いすを改造しました。そのことをエッセイに書いたら、編集者から「危険」と指摘され、警察からは「法的に問題ないが、公道での車いす3人乗りは注意喚起が必要」と言われました。しかし、「自転車の2人乗り」や「ベビーカーを片手で押し、もう一方の手で子どもの手を引く姿」などを「危ない」と感じないのはなぜでしょうか、と会場の皆さんと考えました。

高校でのフォークダンスの授業では、全員が一般パートと車いすパートを覚える工夫をしました。その結果、伊是名さんはクラスメイトと一緒に踊ることができました。

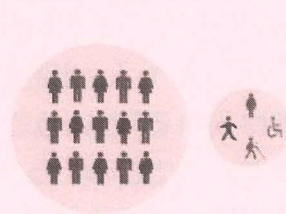
「違っていいよね」と分けることが配慮と思い込みがちですが、「一緒に楽しむためにはどうしたらいいか」と考えることが大事だと話されました。



排除：エクスクルージョン



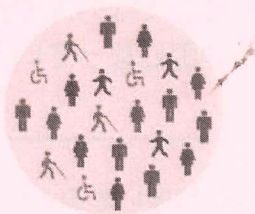
分離：セグリゲーション



統合：インテグレーション



包摂：インクルージョン



差別や抑圧は、性別・性的指向・出身・収入・障がいなど、複数の属性が組み合わさることで複雑に生じています。この「複数の差別の重なり合い」を可視化する概念として「インターセクショナルリティ(交差性)」の概念を紹介していただきました。

●排除 (エクスクルージョン)

特定の人やグループを他の集団から取り除く。

●分離 (セグリゲーション)

差別要因が個別に扱われる。

●統合 (インテグレーション)

特定の人やグループは少数者として存在。

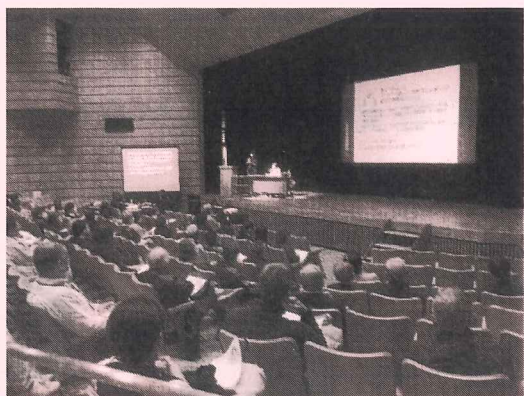
●包摂 (インクルージョン)

少数者も全員の中に当たり前にいる。

それぞれが価値を発揮できる環境を整える。

LES AVIS DU CONSEIL ECONOMIQUE, SOCIAL ET ENVIRONNEMENTAL
Mieux accompagner et inclure les personnes en situation de handicap: un défi, une nécessité (2014, p.21) を
障害者権利条約一般的意思1号を基にして、改題・加筆 2018.2.19. 一木裕子
上記一木氏作成資料を参考にしてイクス編集部に作成

障がいのある人の子育ては、周囲から「無理」とも思われがちです。2025年7月には、体制を整えていたにも関わらず本人の意思に反して、出産直後に子どもを取り上げられた障害女性の友人がいたとのこと。伊是名さん自身も結婚のときには大反対を受け、小学校教師だった職場では、同僚の女性から「反対するのは当たり前」と言われ、ショックでしたと話されました。



また、障がいのある人は、「性の無い存在」と見なされる一方で、性被害にあう確率が高く、その被害を信じてもらえない現状があります。いつも会っている人や援助してくれている人からの加害が多い、とのことでした。

ずっと否定され、傷ついてきたことや辛いと感じていることは、自分でも気づきにくいものです。

「がんばれる人」だけではなく、さまざまな状況にあるすべての女性に寄り添う社会であってほしい、と強く結ばれました。

講演を聞いた市内高校生の感想をご紹介します

●今まであまり深く考えてこなかった障がいのある人の生活や社会の仕組みについて考えるきっかけになりました。

車いすでの移動や子育ての大変さ、周りの人の理解や支援の大切さなど、実体験を通して話してくださった内容がとても印象に残りました。特に印象に残ったのは電車を利用する時の話でした。車椅子を利用すると普通の人より2倍以上の時間がかかるということを知り、そこまで時間がかかるとは思っていませんでしたので驚きました。

バリアフリー化が進んでいる日本でも、まだ多くの不便さがあるのだと感じました。また、見えない困りごとが多く、周りが気づきにくいこともあるという話から、自分の当たり前が他の人にとっては当たり前ではないのだと改めて感じました。

さらに、インターセクショナルリティーという考え方を知り、様々な立場の人の視点を想像することの大切さを学びました。

これからは、そのような考え方を大切に、思いやりを持って行動できる人になりたいです。

●こういった講演会に参加することや障がいがかかっている方の話を直接聞くことが初めての体験でした。

これまでテレビやYouTubeなどで障がい者の日常やかかえている想いを知る機会があり、少しですが障がい者の苦悩などを理解していたつもりでした。しかし、伊是名さんのお話を聞く中で、あくまでも私が感じたことは理解したつもりだけで、障がい者の方には簡単に想像できない思いや考えがあるということを知りました。同時に、“当たり前って何だろう”“私たちにできることはあるのだろうか”と考えるきっかけになりました。

私は4月から大学生になります。新たな環境で、今まで出会わなかったさまざまな特徴を持っている人に出会おうと思います。色んな人と関わる中で、“1人1人、当たり前は違うからこそまずは受け入れる”ということを実践したいと思っています。またこういった考え方がより広まり、そう思う人が増えることで、障がいを抱える人でもそうでない人でも、色んな人が暮らしやすい街や国になっていくのではないかなと感じました。

編集発行 伊勢原市男女共同参画推進サポーター
伊勢原市人権・広聴相談課
人権・男女共同参画推進係
伊勢原市田中 348
電話：0463-94-4716(直通)
FAX：0463-92-9009
E-mail：jinken@isehara-city.jp

【編集後記】

2月25日に開催した「いせはら男女共同参画フォーラム」について、参加した市内高校生の感想とともに、講演内容を紹介させていただきました。

伊是名さんの経験と想いが盛りだくさんの講演は、紙面では紹介しきれっていません。興味を持たれた方は、ぜひ著書やコラムにも目を通していただければと思います。